

アメリカにおけるプロボノ事情 ～移民・難民を中心に

第一東京弁護士会会員 鈴木 雅子 *Suzuki, Masako*

はじめに

私は、非営利法人難民支援協会の日米交流プログラムの一員として、3月11日から19日までの約10日間、アメリカのニューヨークとワシントンDCを訪れた。今回のニューヨークとDC訪問のもう一つの目的は、アメリカのプロボノ活動、特に難民や移民の分野におけるプロボノ活動の状況を知り、実際にプロボノ活動を推進している団体や法律事務所を訪問することにあった。ここでは、私が今回の調査旅行によって知ることができたアメリカのプロボノ事情の一端をご紹介したい。なお、本レポートは、私の限られた知識、見聞に基づくものであり、アメリカのプロボノ活動に関する包括的なレポートではないことをあらかじめお断りしておく。また、テーマを一部同じくする論考として、2007年4月号「特集1 スタッフ弁護士養成の実践と課題」中「米国の法律事務所と公益活動」（池永知樹会員）、同号寄稿「外国人に対する退去強制手続の日米比較～弁護士へのアクセス問題を中心として」（北村聡子会員）があるので、興味のある方はそちらも合わせて参照されたい。

日本におけるプロボノ活動

日本においては、プロボノ活動は、伝統的に日弁連及び各単位会が中心になって担ってきたと言える。人権救済申立制度や再審事件への取り組み、当番弁護士制度、各単位会が実施する法律相談などはその最も特徴的なものである。このような弁護士会が中心となって立ち上げるプロボノ活動に、個々の法律事務所に所属する弁護士が、弁護士会内の委員会の委員として、あるいは、一会員としてかわるというのが日本のプロボノ活動の典型と言える。もっとも、弁護士の有志の団体や、弁護士や他の専門職が参加するNGOなどを設立し、当該団体に関心のある弁護士が登録、参加し、そこで行われるプロボノ活動に参加する、という形態も増加してきているように思われる。

アメリカにおけるプロボノ活動

アメリカにおいて、プロボノ活動は、少額の弁護士費用で行う活動よりも、全くの無償で行う活動が中心となっている。大規模事務所では特にこの傾向が強いようである。日本では、当番弁護士や国選弁護士など、少額の弁護士費用で行う活動がむしろ一般的と思われるのとは対照的である。

プロボノ活動の担い手としては、まず、弁護士会やNGOがある。アメリカ最大の法律家団体であるABA (American Bar Association) は、プロボノ

と公益活動についての常任委員会を置き、また、プロボノセンターを設置して、法律事務所のプロボノ活動参加を呼びかけている。加えて、1弁護士あたり年間50時間以上プロボノ活動に参加するように推奨している。

さらに、アメリカには弁護士が所属するNGOが多数存在し、このようなNGOがプロボノプログラムを作成して弁護士にケースを回付している。こうしたプロボノプログラムの数は、1980年から2005年の間に10倍も増加し、飛躍的に増大している。

加えて、アメリカにおいては、大規模事務所がプロボノ活動の重要な担い手となっている。大規模事務所においては、プロボノ活動のためのコーディネーターを置き（コーディネーターは専従の場合と通常の弁護士業務と兼ねている場合とがある）、そのコーディネーターがプロボノ活動を提供するNGOと協力しながらプロボノのケースを引き受け、事務所内の弁護士に回付している。大規模事務所はプロボノ活動に費やした時間を勤務時間としてカウントすることにより、勤務する弁護士がプロボノ活動に参加することを容易にしている。また、大規模事務所を中心とする法律事務所は、前記のプロボノプログラムを有するNGOに対しても、資金を拠出することでその財政基盤を支えている。このように大規模事務所がプロボノ活動に熱心であることの背景としては、伝統的にプロボノ活動を行うことは弁護士の責任と考えられていることやプロボノ活動によって得られる充足感などもあるが、法律事務所のランク付けにあたってどの程度プロボノ活動を熱心に行っているかが評価の対象となり、その評価がランク付けに占める割合が高まっているということも大きいようである。

他方で、難民に関するプロボノプログラムを提供しているNGOであるHRF (Human Rights First) によれば、HRFがケースを回している法律事務所はすべて大規模事務所ということであり、中小の法律事務所に所属する弁護士のプロボノ活動は、少なくとも移民、難民に関する限りは活発ではないことがうかがえた。

終わりに

日本においても大幅な法曹人口の増大が見込まれる今、多数の法曹を抱えるアメリカのプロボノ活動のあり方は、NGOや大規模事務所が果たしている役割など、日本の今後のプロボノ活動のあり方に、一定の示唆を与えているように思われる。